



2月の例会報告

「終末期の在宅ケア」

私が病気になり、回復がほとんど不可能な状態になったとき、最後まで私らしい生活を送りたいと願うなら、やはり自宅が一番いいなと思います。

そうなった時、私の“日常”を支えてもらうためには「誰が、どこで、何をして下さるのか」今、できることを岡崎市の＜医師会・歯科医師会・訪問看護ステーション・家事援助事業所＞などに聞きました。

歯科の治療は訪問診療してもらえ、有料になりますが24時間の訪問看護ステーションがあること、困ったときには医師会、病院の相談窓口などがあることがわかりました。65歳未満でガンなどの病気になった場合、訪問看護・家事援助・身体介護は一部有料になります。この場合ボランティアを含めて多くの支援が必要です。みんなが輪になって支えあえるようになりたいです。病気で動けなくなる前に情報を活かせたらいいなと思いました。

以前聞いた、市民病院のソーシャルワーカーの柴田さんの言葉「まず、家族が患者さんの気持ちを受けとめて、在宅での看護を覚悟し、主治医には何をどうしてほしいのか、気持ちを伝えることが大切です」が基本だと思いました。(O)

手縫いの会報告

福祉の村にある「友愛の家」の方たちから、ステキな手編みのひざ掛けをたくさんいただきました。車椅子を利用する人たちから喜ばれています。編んだ方もお世話される立場から人のためになることができたことを喜んでいと伺い、心まで温かくなる気がしました。

愛知国際病院で使われている清拭布がとても不足しているそうです。綿の肌着やバスタオルなどを10cm×15cmに切ってから、寄付していただけるとありがたいです。

「手縫いの会」連絡先：服部0564-23-1263：勝川0564-25-6961

1月 9日	: 雑巾	50枚	→ 愛知病院
	: 雑巾	54枚	→ 市民病院
1月30日	: 尿器入れカバー	35枚	→ 市民病院
	: シイネカバー	10枚	
	: パジャマ	10枚	
2月13日	: シイネテープ	8本	→ 愛知病院
	: カーテン止め	8本	
	: 雑巾	50枚	
	: 枕カバー	59枚	
2月22日	: ひざ掛け	7枚	→ 愛知病院
2月19日	: 清拭布	3300枚	→ 愛知国際病院
3月13日	: ひざ掛け	8枚	→ 愛知病院
	: 枕カバー	21枚	
	: 雑巾	50枚	

以上お届けしました。

◆報 告

☆ “ステキな風のコンサート”



3月3日(土)に雑巾を縫ってくださっている男川小学校5年生全員が愛知病院の中庭で歌をプレゼントしました。子どもたちの素敵な明るく澄んだ歌声は、病院の開かれた窓の中へ、廊下へ、通路へ風のように流れていきました。

子どもたちからひとこと

岡崎ホスピスケアを考える会のみなさん、一緒に歌ってくれてありがとうございました。患者さんの笑顔が見れました。拍手もしてくれました。患者さんが泣いているのを見たとき、こっちも泣けてきてしまいました。人に喜んでもらうことがどれだけうれしいかが、わかりました。病院で歌わせてくれてありがとうございました。

☆今年度のテーマは「冊子作り」でしたが、「私のたまたま箱」という形で完成しました。(下記「伝言板」参照) 専門職の方たちなどたくさんの人たちの意見を聞きながら作りました。＜手にしたら終わり＞でなくて＜手にして活用する＞「たまたま箱」にしていきたいと思っていますので、またご意見がありましたらお知らせください。1冊1,000円です。

◆ご 案 内

【4月】

手縫いの会：日 時 4月10日(火) 10時～12時 県立愛知病院看護相談室

例 会：テーマ「画集写真展」二村・エッケルト敬子

日時 4月20日(金) 10時～14時 場所 岡崎カトリック教会

1991年春、夫の急死という喪失体験の限界状況から立ち直るために私が見つけた方法は、感情を画紙にたたきつけ、思いを文章にすることでした。・・・

・・・この画文集は「愛」との出会い、別れ、そして再会を語ろうとするものです。・・・
「あながき」より

つ ど い：日 時 4月25日(水) 12時30分～15時30分まで 橋詰宅

患者や家族、遺族の方たちを対象に、何でも話せる場所です。

自分の求めているものを、この出会いの中で、自分で見つけて帰る会です。黙って座っているだけでもいい。心の火種がポット温くなるような木村先生がご一緒してくださいます。

参加ご希望のかたは 橋詰：0564-53-3100 小野：0564-24-8518 までご連絡ください。

【5月】

手縫いの会：日 時 5月 8日(火) 10時～12時 県立愛知病院看護相談室

例 会：テーマ＝「私のたまたま箱」記入

日 時＝5月18日(金) 10時～12時 勤労福祉会館

伝言板

2000年度も「生きている今この一瞬に心をこめ、限りある人生を大切に生きたい」と願い、一步一步進んでまいりました。

「遺言」を書き「私のカルテ」を作り、「ガンの痛み」と題して行った勉強会では、モルヒネという安全な薬と神経ブロックで痛みの95%以上は止められることを知りました。

「延命治療」もまだ入り口ですが一步を踏み出し「在宅ホスピスケアを」と願い、それに関わる人たちとの交流も始まりました。一方で、死を受け入れられる人生を送りたいと思い行なった宗教家との勉強会は、価値観を見直すチャンスとなっています。

ビッグニュースです。2000年度の勉強会をもとに「私のたまたま箱」という小さな冊子(出し入れできるもの)ができました。運営委員ひとりひとりが、本当にほしいもの、知りたい情報がわかるようなものになっています。

2001年度はこの冊子を元にして“私の思い”を書き入れ、「私たちの願うホスピスケアとは何か」「私たちができるホスピスケアとは何か」について話し合いお互いによりよい人生を送る勉強をしていきましょう。

橋詰清子

